

北見赤十字病院 認知症疾患医療センター 市民公開講座 開催報告

日時：令和7年11月1日（土）13:00～14:30

会場：NiCC 芸術文化ホール 中ホール

内容：認知症と共に歩むこれから的人生～希望がもてる社会へ～
『認知症ってミステリー？ 僕のこれまでのヒストリー
これからのセカンドストーリーを語る認知ショー』

令和7年11月1日（土）に市民公開講座をNiCC 芸術文化ホールの中ホールにて開催いたしました。悪天候の中、140名の市民・関係者の皆様にご来場いただきました。以下、内容を報告いたします。



講師

ほっかいどう希望大使（認知症本人大使）
松本 健太郎 氏

聞き手

砂川市立病院 認知症疾患医療センター
精神保健福祉士 大辻 誠司 氏

今年の市民公開講座は、ほっかいどう希望大使（認知症本人大使）に昨年任命された松本健太郎氏を講師に招きました。若年性アルツハイマー型認知症と診断されるまでの空白の期間、診断を告げられたときの気持ち、休職後に営業職からガソリンスタンドへの異動、仕事の工夫や生活の工夫、ほっかいどう希望大使への任命、新たな人生に向けた環境変化等、症状出現から今に至るまでを現在通院中の砂川市立病院 認知症疾患医療センターの大辻氏を聞き手とし、講話をしていただきました。

講師の松本氏は、『認知症があっても活躍できる』『公表して社会の役に立ちたい』『より深く認知症のことを理解してほしい』という思いから、仕事の傍ら講演会活動等を精力的に行ってています。認知症があっても支え合いながら、共に目標や希望を持って生きることの大切さを教えて頂きました。

終了後のアンケートでは、「当事者本人のお話はとても説得力があり、心に響きました。」「認知症の方が社会の中で役割を持ち活躍している話が聞けて良かったです。」という感想や「前向きに頑張っている生き方に感銘を受けました。道程は長いですが今後も頑張ってください。」「認知症で悩んでいる人の支えとなって、これからも講演活動を続けてほしいです。」等の松本氏への応援メッセージも多く寄せられました。

来年度も市民・関係者の皆様に向けた認知症に関する市民公開講座を開催予定です。皆様のご参加を心よりお待ちしております。



（認知症疾患医療センター事務局 垂石記）